

副官部	謀参丙	謀参乙	謀参甲	長謀参	長師

(任主)
(5)

參謀部
報譯部
紙

秘

電報

昭和九年五月十六日 午前九時

師團長宛

發信者

林田大隊長

翻譯者 着信 番號

2

本文

興警電四九

飛行機連絡時刻一日二回ナレバ午前十時
午後二時一回ナレバ午後二時ヲ希望ス

陸軍

(多電)

28

發信濟

本日貴局候送家事務
長官進丁員

興電
田九受領

愛報(晴)

受信者
薊州
北田少佐

發信者
參謀長

番發號		七參第		七〇號	
長謀參	將少附	者帶連	部主任	官副謀參	任主
		長部	長部	尉大附	
				昭昭和	
				年 年	
				月 月	
				日 日	
				發 起	
				送 案	
				者 發	
				印 送	

少若

7.85

淨書者印

12



師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
名	瀧本				眞	

電報部

秘

電報

昭和九年 五月 十六日

午前 午後

時 分

翻譯者

着信番號

36

師團長宛

興隆敬言備隊長

本文

興敬言電 五〇

刺果自衛團ハ交渉ノ結果自發的ニ十五日
 輕機ニヲ我ニ提供セリ。之ニ關係凡馬伸橋
 自衛團ニ對シテハ稍々強制的ニ交渉ニ砲
 彈及小銃彈ヲ徵收セリ。保安隊ノ武器
 ハ未ダ回答ナキ也。明十七日ニハ可否決定ノ
 見込ナリ。

通電先 師團長 歩三旅團長
 歩二六聯隊長

陸軍

名

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶

參謀部 紙マ

秘

電報

昭和 年 五月 一六日 午前 六時 四分

第七師團長宛 發信者 其陸警備隊長

本文

其陸電 五一

保安隊ノ密使ヲ捕ハ其ノ所持書類ヲ調査セルニ目下
 緝獲区各方面ニ渡リ兵器ノ隠匿ニ對シ各々ノ連
 絡ヲナシツ、在リ
 此ノ際戦区内ヲ一斉ニ兵器引上ヲ速カニ實施スルヲ
 可トスルノ意思見ヲ具申一ス

通電先

師團長、歩三旅長、歩二旅長

陸軍

翻譯者 着信番號 35

發信済

封入の積強制的ニ交渉シ破算ハ小銃隊ヲ徴収スルニ保家隊

ヲ提出スル又同自衛団ニ密接ニ関係シ先馬伸橋自衛団ニ

(本館社長の署名)

在薊州井田カ他報告要者〇〇(イ) 薊州自衛団ハ自發的ニ輕械ニ

十番

受報(晴)

受信者 軍 部 長 官 附 大 員 發信者 氣 謀 長

件名 薊州又件 第十七 報

師團長		發號		翰乙	
參謀長		附少將		七	
連帶者		主任部		參第八	
部長		部長		二	
參謀副官		主任		號	
附大尉		職員		者保	
員		部		管印	
昭昭和		年		年	
月		月		日	
發送者		發送者		印	

七參第八四號

290
229
10 (P)

淨書者印
267
225
桃 (+)

田舎

一 田舎に集まる。田舎に集まる。田舎に集まる。田舎に集まる。

田舎の家、窓を捕へ共計持た書物ヲ調査セシ^所依^ハハ^ニ聚^ル也

田舎に集まる。田舎に集まる。田舎に集まる。田舎に集まる。

田舎に集まる。田舎に集まる。田舎に集まる。田舎に集まる。

二. 3

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
五	濱				◎	

參謀部マ

秘 急

電 報

昭和 九年

四月 十六日

午前 午後

翻譯者

着 番 着 信 號

27

本文

參 謀 長

宛

發 信 者

支那駐屯軍參謀長

天 五 二 八 其 一

柴山ヨリ

本朝殷汝耕米訪シ目下薊県ニアル林田少佐ヨリ
 同地保安隊ノ重火器ヲ渡要スルヲ受ケアルモ本県
 ハ既ニ支那側ニ於テ自発的ニ兩三日中ニ撤收薊
 県ノミナラス魏永和部隊全部ヲ通ジ取糧ハ
 總々撤去スル事ヲ付日本軍ノ押收ハ今暫ク
 猶豫セラレ度 (續)

リ

陸 軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶

參謀部
紙マ

電報

昭和 年 五月 一 日
午前 四時 二分
午後 四時 四分

翻譯者

着信番號

28



參謀長宛 發信者 支那駐屯軍參謀長

本文

天五二八 其ノ二

戦区銃火器問題ニ就イテハ既ニ当方ニモ関東軍ヨリ
指示アリシ次第ニテ目下小官大津ニ於テ当地
責任者タル千學子忠ニ對シ戦区全部ヲ通ジ
嚴重交渉中ナルニ件就キ貴方ニ於テモ一先談
押收ノ件一中止シ小官交渉ノ結果ヲ待テ更ニ處
置セラル、様配慮アリ度

(第七師團以外ハ参考迄)

通電先 軍、山根、承機、七師

陸軍

發翰
番號

七參第八號

師團長

附少將 參謀長



主任部

連帶者

部長

主任

參謀 副附 官

職員保者
印管員



昭和

年

月

日
起案

發送者
印送



件名

荊州月件 共七報

受信者

軍部 三津 山崎 承章

發信者

參謀長

電報(囑)

天五八 叔承

發信

事件(閱) 統制熱烈に援助する事(已) 謝意を述べ

取付金紙(室) 異向(電) 三田(電) 在(電) 在(電)

455 3

淨書者印

9

河内、閩電二二五、指示、任、目、
大参、大日、一、妙、宝、池

中、三、三、目、一、状、况、
大参、大、二、号、一、状、

数、区、全、般、一、重、大、各、内、題、
处、理、周、電、二、三、日、
一、妙、普、官、一、大、願、二

人、天、解、在、元

石、一、百、
一、日、一、日、
一、日、

一、日、
一、日、
一、日、

一、日、
一、日、
一、日、

(一) 北平以外、参考、(二)

子、林、林、

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
		⑤	④	③	②	①

參謀部
電報譯用紙
マ

秘

電報

昭和九年五月一七日 午前七時四分

師團

長宛

發信者

興隆警備隊長

翻譯者

着番 着信 番號

⑤

10

本文

興警電

五二

興安隊重火機 問題交渉ニ對シ回答ハ十七日

午前迄ニ如何等回答ナキモ 夕刻ニハ回答アル

見込ナリ

何分交渉スベキ責任者現在シアラザル為接衝

困難ナリ

通電先

七師 歩十三旅 歩二六

7

陸軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶

參謀部
紙マ

秘

電報

昭和九年五月一七日

午前 〇時 四〇分
午後 二時 三五分

翻譯者

着信番號

一七

師團長宛 發信者 興隆 榮一 備隊長

本文

興警電 五三

保安隊重火機引上げニ對シ可否未定ナルモ
本日中ニ回答ノ為總隊長代理ガ當方ニ
來ル旨通報アリ

通報先 七師 十三旅 歩二六

陸軍

①
②

淑安三六五薊情第四號

薊縣情報告

昭和九年五月十六日午前九分

薊縣城 林田大隊長

第七師團長殿

日保安隊重火器引上ニ関ス其後ノ経過報告

舊薊縣保安隊重火器引上ニ関シテ昨十五日電報

報告セシモ更ニ左記ノ如ク報告セントス

薊縣事件發生トテ保安隊ノ重火器ハ順義ニ

得セルノ如ク目下薊縣ニ何カモ現在シテアラズ昨

十五日午後新旧保安隊長並ニ日支連絡者トシ

テ派遣セラルヘキ由世和(日本陸士出身)ヲ招致シ

我ニ兵器ヲ提携スル如ク交渉ス由世和ハ直ニ北平

ニ歸リテ駁汝耕ニ其方ヲ傳ヘ必ス其來由ヲ

重火器ヲ持来ル如ク速ク今明の中ニ^其回答

アル筈

自衛國ノ兵器ニ関シテハ停戦協定ノ趣旨ヲ

篤ク了解セシメタル處ニ前特自衛國利國也

自発的ニ輕機ニテハ担當セリ之ニ関連ナラズ

國也却テ下馬伸橋兵器ノ昨午也現場ニ兵

力ヲ差遣シ自撃砲彈、機関銃彈等ヲ積

強制引上ヲ実施シ其他ノ兵器モ自下請書中

下馬伸橋、新機以外ニ此以上ニ中ヲ延ハササル

定チ

引上兵器ハ後日答返却スル下リ意合アリ

意見

停戦迄ハ兵器撤去引上ハ此際可成連三

〔物ニ期ッ失セズ、室耗スルヲ可トセズ
報告先〕

師岡長

旅岡長

彰海長

(係自)

液歩天四刺情第五號

刺情情報報告

昭和九年五月十七日午後九時

光刺情
林田大隊長

第七師團團長長官

一公安邊重兵器問題交渉ニ関スル電命昨十六

日受領ス目下得安邊ニ對シ交渉ヲ續ク一本

十名中一六回答アル等ナルハ順義ニアルト稱ス

重兵器ノ提出可否ハ相當難問ト豫想セラ

ル係ニ場合ニ連カニ師團ニ報告スヘク師團長

市爾知相談也

二自衛團ノ重兵器ニ對シテハ昨報ノ如ク懸機

ニ砲彈其他ヲ我ニ提供セシモ馬中橋附近

一自衛團團長李維周、部下八河知房

逃之搜索不可能なり即ち民國ニ對シテハ
國長李桂國ヲ總體ニカシタル如ク
將來日米軍通運時等ハ我ニ厚官ヲ興フ
如ク注意ヲ與ヘ先自衛國ニ對スル軍火器問
題ヲ解決スルニテ午後陸軍部定見趣旨
ヲ了解シ我ニ兵器ヲ提供セシムル如ク
指導セラル

(輔考先)

師團長、旅團長、聯隊長

昭和八・四・大阪・廣本純

發 五月二十七日 午 短時

着 月 日 午 時

分 分

於 八八 六八

受 信 者

加參謀長殿

發 信 者

偵士上尉
持本軍曹

通報

一、林田部隊ヨリ、報告口ヲ送達

二、林田部隊ノ要、本二甘至キ三河

附近ヲ偵察ス
蘇運河以西三河附近ハ

住民、出入ナク且路上ノ往來
斷絶ナリ

三、邦領、其駐戸附近ニ
此ニ往來スルモノ、特ニ開散ナ

四、同前、260長ハ、報告口傳達

セズルヲ云

帶連	任主	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長團
	壽		揚	若		

參謀部
用紙マ

電報

昭和九年五月十七日 午後二時五分

參謀長 宛 發信者 武官補佐官

本文

北京三二七

薊縣保安隊重火器撤去問題ヲ支那
 側ニ自發的ニ處理セシムル事トシ
 日通州ニ搬送スル事ニ決定セリ
 依ツテ當方ヨリ 大尉ヲ
 午後支那側責任者ト共ニ薊縣ニ派
 遣シ是ヲ監視セシムル事トシ、
 尚三河、密雲ニ在ル重火器モ此際
 通州ニ移送セシメ當方ニ於テ之ヲ
 檢スル

陸軍

2/3

事トセリ、

依ツテ林田少佐ニモ右ノ旨至急通報
セラレ度

(才七師團以外ハ参考迄)
通電先

関・天・山・承・七師

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶

參謀部
紙マ

秘

電報

昭和 年 月 日 午前 午後

師團長宛

發信者

興隆教導隊隊長

翻譯者

着番號

本文

興警電 五四

十七日午台北平駐在武官坂庭大尉當
地ニ來リ兵器引上げ關シ責任ヲ以テ通
州ニ撤去スル旨申シ來レルモ大隊ハ砲迄
師團命令ノ通り直接兵器ノ引上げヲ
交渉中ナリ

之等ハ7月21日ハ...

陸軍

(急電)

發

信

發給
收還
4
5
本
卷
之
目
入

河内、曹官、空連、空確、下、工、尔、信、轉、
在、劉、州、井、田、部、部、

共
三
二
七
部
隊

要
報
(密)
打
電
及
心

師團長	參謀長	少將	主任	連帶者	部長	主任	參謀	副官	大尉	部	員	昭 和 年 年 月 月 日 日 發 發 送 送 者 者 發 發 送 送 印 印	番 發 號 翰 桃 七 參 第 九 〇 號
	參謀長	少將	主任	連帶者	部長	主任	參謀	副官	大尉	部	員	昭 和 年 年 月 月 日 日 發 發 送 送 者 者 發 發 送 送 印 印	番 發 號 翰 桃 七 參 第 九 一 號
												昭 和 年 年 月 月 日 日 發 發 送 送 者 者 發 發 送 送 印 印	番 發 號 翰 桃 七 參 第 九 一 號

件名: 劉州
受信者: 軍、也、天、山、林、及、
發信者: 氣、洋、夏
受信者: 軍、也、天、山、林、及、
發信者: 氣、洋、夏

91 91
5 18
96 109
10 11
ホ 工

桃
5
26
2
淨書者印
279

有自正国ニ投出スル^③ 戦時等ニ必要ニシテ 遂時傳用スルニ条件

一、^④ 戦時等ニ必要ニシテ 遂時傳用スルニ条件

（其ノ中ニ必要ニシテ）

大正

大正

(急電)

發信濟

フ 發信濟 (急電) ナシ

西國ハ 蕪州保安隊、重火器の上ケケ、北平支官、王作、妻、重火

興電 五四部隊

愛報 (晴)

件名 蕪州 十九日 報
受信者 蕪州 井田カ行

發信者 參謀長

番發 號翰	七 參第 九 號		昭 和 年 年 月 月	日 起 案 日 發 送	者 發 送 者 印
師	長 謀 參	將 少 附	部 主 任	者 保 職 印 管 員	
團	者 帶 連		部 主 任		
長	長 部		部 主 任		
	官 副 謀 參		任 主		
	尉 大 附				
	員		部		

① 26/
② 139
③

淨書者印



官

昔佛の在るは坂庭工所へ移り殿所へ命り侍り候はば

昔の一勢力ニヨリ在り候はば今日も其の在り候はば

に思ふに其の在り候はば

お寺に在り候はば

為儀工国の執持に在り候はば

蘭塔新河多作位に在り候はば

十



106

發信濟

番發號翰

七參第

九乙

者保職
印管員

昭和
昭和
年
年
月
月

日發送
日起案
者發送
印

翰

師團長

將少附
長謀參

部主任
者帶連
長部

官副謀參
尉大附

員部

件名

受信者

岡車中 第中隊長 志園孝謙

發信者

冬滿長

馬副少隊長

今般勤知事件、因し不

絶大、後援ヲ謝ス

勤知事件交渉内容及般仕耕、自勤、因し不、先方、而子

毛、新、等、必、外、表、七、如、口、約、し、事、中、事、中

ネイ

淨書者印

2523
⑦

8

設計書

師範学校 大連、奉天 等、此等之^ニ内容ノ^中ヲ掲載セ^ン

モヨク
横柄古毛本付^ノ内^ノル
レ^ル 可^ク 記^ス 履^ク 云^フ

縦横古毛本付ノ内ニモヨク
レ^ル 可^ク 記^ス 履^ク 云^フ

十
九

7
111-1

日比集
通判の筆結をいふこと

提出し又同係家統の筆結は軍ノ指示ニ基キ其平公宮ニ送ラセ

薊州の正副の五月十日の自主的ニ共戦様ニシテ軍革者干ラテ部員ニ

電報(暗)

受信者	件名	長 團 師	番發
軍 共	薊州の件	長謀參	七 七 参 第 九 五 號
天 山 孫	送了の件	將少附	七 参 第 九 四 號
孫 孫	張 M	者 帶 連	七 参 第 九 五 號
張 M		長 部	七 参 第 九 五 號
		部 主 任	
		官 副 謀 參 任 主	
		員 部	
發信者	發信者		
	孫 英		

七 参 第 九 四 號

札
10303
303
淨書者印
① 404
② 265

昭和 9 年 5 月 11 日 發送 者 發 送



二

師團、薊州事件、因、定年、秋、要、本、ヲ、書、留、シ、且、最、モ、重、大、事

③

起、
心得

續、
二二

處理問題、
諸、端、ヲ、提、
升、
目、
的、
薊、州、
在、
其、
田、部、所、
ヲ

昭、
示、
同、
父、
弟、
厚、
誼、
也、
二、
德、
澤、
也、
二、
カ、
ニ、
カ、
リ、
一、
續

二
二

①、
薊、州、
回、
工、
團、
報、
據、
二、
先、
行、
一、
要、
本、
ニ、
ヨ、
リ、
後、
時、
傳、
用、
カ、
ニ、
義、
②

件、
一、
六、
二、
一、
部、
分、
ニ、
對、
シ、
テ、
後、
日、
支、
那、
創、
二、
交、
渉、
シ、
道、
③

部、
分、
ニ、
對、
シ、
テ、
義、
④

茲、
本、
事、
件、
ニ、
關、
シ、
テ、
各、
部、
門、
並、
各、
科、
長、
ノ、
協、
力、
並、
接、
助、
ニ、
充、
テ、
深、
甚、
④



謝意ヲ表ス

~~在軍#第巻~~

(軍) (二) (大) (砲) (造) (ト) (ス) (終) (終)

昭和八、四、大阪OR納

陸軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
			(5)		(蓋)	

參謀部

秘

電報

昭和 年 五月 十八日 午時 一〇時 〇〇分

翻譯者

着信番號

4

師團長

宛

發信者

其隆警備隊長

本文

其隆電 五五

北平武官柴山中佐、冰道セラレタル坂處大尉ハ
 武官ニ於テ責任ヲ以テ支那側ニ自發的兵器
 撤退ヲ實行セシムルト、目下兵器ヲ通州ニ搬送
 中、現認セリ
 旧保安隊ノ重火器ハ一部遵化ニアルモノ、如ク
 兵器撤退ニ就テハ北平武官ヨリ師團ニ電報アリテ
 若爾後ノ上處置ニ付返待ツ

通電先

師團長、歩三旅長、歩二大長

陸 70年5月18日

電

4-30 其(念元) 79

受信者	件名	長 團 師	番發 號 翰
軍 官 山 岸	薊州事件之關係	長謀參 將少附	七參第 三七 號
要報 (暗号)		者帶連 部主任	三 八 五 飛行 三 中 隊
發信者		長 部 長 部	
長 部		官 副 謀 參 任 主	者保職 印管員
員 部		昭 和	昭 和
4 1 3 2		年 年	年 年
		月 月	月 月
		日 發 送	日 起 案
		者 發 送	者 發 送
		印 送	印 送

薊州事件之關係 關係冬梓閣ノ接助ヨリ 上者本部

倒心津ヲ我ニ要ホク 重要ト見テ 重ト見テ 問題ノ解決

把持ノコトニ 関國ノ 在薊州 林日新隊ノ討 回 到

235
292

255
188
88
257
233
批

其二

其保家 深意 井部 有也 重太 是也 即暗 提出 道

其到 井部 自 井部 重太 是也 井部 是也 井部 是也

其 井部 是也 井部 是也 井部 是也 井部 是也 井部 是也

其 井部 是也 井部 是也 井部 是也 井部 是也 井部 是也

其 井部 是也 井部 是也 井部 是也 井部 是也 井部 是也

其 井部 是也 井部 是也 井部 是也 井部 是也 井部 是也

其 井部 是也 井部 是也 井部 是也 井部 是也 井部 是也

24-3

保

薊州事件第 報

第七師團參謀長 濱本喜三郎

馬淵參謀殿

諸情報ヲ綜合スルニ何應欽及干學忠ハ今回ノ事件ニ
 關シ大ニ焦慮シ事態ヲ擴大セサル様夫ニ北平武官
 及天津軍ニ歎願シアルカ如シ
 貴官ハ支那側ノ此態度ニ鑑ミ、現地當局ニ對シ斷
 乎トシテ、我要求ヲ貫徹シ且將來再ヒ此ノ如キ不祥
 事ヲ繰リ返サ、ル様適確ナル保証ヲ確保セラレ度
 尚保安隊ノ重火器ハ即時沒收シ民團ノモハ已ムヲ
 得サレハ若干ノ期限ヲ附シテ指定ノ地點ニ呈出セシ
 ヌ以テ戰区内重火器問題解決ノ為好先例ヲ作ル
 如ク努力アリ度

(通電先 軍、北、天、山機、飛行第三中隊)

第廿七

第廿七

第廿七

第廿七

刺縣事件、關係件通牒

第七、刺縣、關係件

決、本、部、三、部

各部部隊 (部下) 宛

今回發生シタル刺縣事件、適正迅速ニ出動部隊、

行動ト教正強硬ニ外來的折衝ト依リ良好ナル

成果ヲ収メテ其局ヲ統ヲ至リ茲ニ出動部隊ヲ原駐

地ニ返還セシムルニ至リ 惟、本事件、伴、我、皇軍、



皇

軍

行動ハ其ノ出所進退最モ公明ニシテ克ク北鎮
師團ノ名聲耳ヲ中外ニ宣揚シ得タル特ニ上司ノ満足
セラル所ナリ 然レモ本事件ニ關由聯シテ將來支那側
ノ中傷逆宣傳等頻繁ニシテ為ニ派生的ニ事件
ノ勃發セシメトシテ憂ムル 故ニ此際特ニ部下ヲ戒
飭シ教肅公正ナル態度ヲ堅持シ不純ノ煽動

陰謀ニ乘セ^レテ^レ 輕率ニ妄動ス^ル 大局ヲ

失スルカ如キ^テ 無キ標^ハ 配慮^ハ 相成度^ニ 依^リ 命

通謀ス

ノ

三三三
三三三

參謀部

電報

昭和九年五月十七日

午前七時四分

翻譯者

着

番號

3

師團長宛 歩一旅團長

本文

歩一旅電六五

此際重火器之徵收ハ相當威力アルモノヲ以テ戰
区内ニ進出シ交渉セシムルヲ可トス
之ガ為各戰備地区方面ハ二區ニ分テ聯隊長
ヲシテ其ノ局ニ當ラシムルヲ適當ト認ム
右意見具申ス

界区内を以て是内戰ノ全圖の支河ハ北平公官ニシテ
コトナリテ戰備ノ上制州ノ範圍ニテ處理未定
ナキハ又或連ノキヲリテ考テ下ノレト考テ處理未定

師團長 參謀長 參謀甲 參謀乙 參謀丙 官部

(主任)

陸軍

副官部

住主

6

三歩一
派甲第六八號



戰區内重火器撤去ニ關

スル意見見具申送付之件

昭和九年五月十八日 歩兵第十三旅團長谷實夫



第七師團長杉原美代太郎殿

首題之件別紙一通送付ス

22
21

極秘

戰區内重火器撤去ニ關スル意見具申

判決

師團ハ薊縣事件ヲ機會トシテ戰區内重火器問題ヲ一舉手全面的ニ解決スルヲ要ス

理由

從來支那側殊ニ河北省政府ハ故意ニ停戰協定ヲ蹂躪シ進ニテ之ヲ破棄セシトスルノ論ヲオスモノアリ之ヲ看過スル時ハ遂ニ該協定有名無實トナルハ此ノ際薊縣附近ニ於ケル重火器撤去ヲ

容易ナラシメ一ニハ此ノ要求ニ關連シテ與テ
戰區全般ニ亘リ重火器問題ヲ解決シ戰
區内ニ於ケル我特種地位ヲ確認セシメ以テ支
那側ノ停戰協定遵守ノ觀念ヲ徹底セシ
ムル如クスルヲ要ス

部 署

一歩ニ五ノ主カヲ古北口ニ歩ニ六ノ主カヲ薊縣
附近ニ集結セシム兩聯隊ノ搜索及撤去
擔任區域ヲ左ノ如ク定ム

平谷―三河―香河ヲ連ヌル線(線ハ六歩ニ
五トス)

撤去實行監視ノ為要スレハ兩聯隊ヲ更

ニ進出セシム

所要ノ砲工兵及輜重隊ヲ屬ス

ニ旅團司令部ヲ古北口ニ移動ス

ニ旅團長ハ薊密行政督察專員殷汝耕

及河北省保安第二總隊長其他必要ナル

職員ヲ古北口ニ招致シ重火器撤去ニ關ス

ル要求ヲナシレ兩聯隊長ヲレテ各擔任地區

ニ於ケル當局者ト交渉シ重火器ヲ撤去セ

シメ之ヲ監督ス

四重火器ハ各地區毎ニ一地ニ提出セシメ協定

線外指定位置ニ撤去セシム

五步兵第十四旅團ニ於テモ同時ニ實施ス

六師團ハ河北省政府ニ對シテ要求ヲ交付ス

極秘

戰區内重火器撤去ニ關

スル意見具申

判決

師團ハ其剿縣事件ヲ機會トシテ戰區内重
火器問題ヲ一舉手全面的ニ解決スルヲ要
ス

理由

從來支那側殊ニ河北省政府ハ故意ニ
停戰協定ヲ蹂躪シ進ニテ之ヲ破棄セシ
トスルノ論ヲオスモノアリ之ヲ着目過酷殺ス
ル時ハ遂ニ該協定有名無實トナルヘシ
此ノ際剿縣附近ニ於ケル重火器撤去ヲ

容易ナラシメ一ニハ此ノ要求ニ關連シ一學等ニ
戰區全般ニ亘リ重火器問題ヲ解決シ戰
區内ニ於ケル我特種地位ヲ確認セシメ以テ支
那側ノ停戰協定遵守ノ觀念ヲ徹底セシ
ムル如クスルヲ要ス

部 署

一歩ニ五ノ主力ヲ古北口ニ歩ニ六ノ主力ヲ薊縣
附近ニ集結セシム兩聯隊ノ搜索及撤去
擔任區域ヲ左ノ如ク定ム

平谷―三河―香河ヲ連ナル線(線ハ六歩ニ
五トス)

撤去實行監視ノ為要スレハ兩聯隊ヲ更

ニ進出セシム

所要ノ砲工兵及輜重隊ヲ屬ス

ニ旅團司令部ヲ古北口ニ移動ス

ニ旅團長ハ薊密行政督察專員殷汝耕

及河北首保安第二總隊長其他必要ナル

職員ヲ古北口ニ招致シ重火器撤去ニ關ス

ル要求ヲナシ兩聯隊長ヲシテ各擔任地區

ニ於ケル當局者ト交渉シ重火器ヲ撤去セ

シメ之ヲ監督ス

四重火器ハ各地區毎ニ一地ニ提出セシメ協定

線外指定位置ニ撤去セシム

五歩兵第十四旅團ニ於テモ同時ニ實施ス

六師團ハ河北省政府ニ對シテ要求ヲ交付ス

極秘

戰區内重火器撤去ニ關スル意見具申

判決

師團ハ薊縣事件ヲ機會トシテ戰區内重火器問題ヲ一舉手全面的ニ解決スルヲ要ス

理由

從來支那側殊ニ河北省政府ハ故意ニ停戰協定ヲ蹂躪シ進ニテ之ヲ破棄セシトスルノ論ヲナスモノアリ之ヲ首過黙殺スル時ハ遂ニ該協定有名無實トナルヘシ此ノ際薊縣附近ニ於ケル重火器撤去ヲ

容易ナラシメ一ニハ此ノ要求ニ關連シ一與手ニ
戰區全般ニ亘リ重火器問題ヲ解決シ戰
區内ニ於ケル我特種地位ヲ確認セシメ以テ支
那側ノ停戰協定遵守ノ觀念ヲ徹底セシ
ムル如クスルヲ要ス

部 署

一歩ニ五ノ主カヲ古北口ニ歩ニ六ノ主カヲ薊縣
附近ニ集結セシム兩聯隊ノ搜索及撤去
擔任區域ヲ左ノ如ク定ム
平谷—三河—香河ヲ連ナル線(線上一歩ニ
五)トス

撤去實行監視ノ為要スレハ兩聯隊ヲ更

ニ進出セシム

所要ノ砲工兵及輜重隊ヲ屬ス

ニ旅團司令部ヲ古北口ニ移動ス

ニ旅團長ハ薊密行政督察專員殷汝耕

及河北首保安第二總隊長其他必要ナル

職員ヲ古北口ニ招致シ重火器撤去ニ關ス

ル要求ヲナシ兩聯隊長ヲシテ各擔任地區

ニ於ケル當局者ト交渉シ重火器ヲ撤去セ

シメ之ヲ監督ス

四重火器ハ各地區毎ニ一地ニ提出セシメ協定

線外指定位置ニ撤去セシム

五歩兵第十四旅團ニ於テモ同時ニ實施ス

六師團ハ河北省政府ニ對シテ要求ヲ交付シ

情

上
一
一
毛
下
二
一
才

2413

番發

七參第一四三號

者保職

昭和9年5月

24日
日起案
日發送

者發送



師團長

長謀參

者帶連

長部

官副謀參

員

將少附

部主任

長部

任主

部

受信者

軍參謀長 天山

發信者

參謀長

件名

薊縣事件ニ鑑ミ殷汝耕ハ特ニ將來日本軍隊トノ連繫ヲ

密シク意志ノ疎通ヲ圖ル為新ニ馬蘭峪、辦事処ヲ設ケ殷ノ

錫 殷體新ヲ主任トシ 金井ノ方太即チ同病託トス

發信 信濟

三〇〇九、カラダ、アタラシ

桃 七參第一四三號

20
2311

桃 226
295

淨書者印 19
20

古北口ニ殷ノ義弟ノ名井上^{ラカニキ}馬之ヲ囑^マ託^ストス由^ル為^ル最近古北口

公安局^ニハ涉^ル故^ク大^ニ子^ト吉^ノ字^ト士^ト也 查^サ疆^ケヲ^テ刺^シ殺^ス保^ル安^ス家^ニ

(二六八六、三九八四)

日本^ノ士^ト出^ルノ由^ル世^ノ和^ラ連^ル冬^ノ格^トシテ^テ派^ス遣^ス

(軍^ノ外^ニテ^モ考^ヘル^ニ也)

通^ル先^ニ軍^ノ天津^ノ山海^ノ関^ノ甘^ノ肅^ノ馬^ノ蘭^ノ嶺^ノ柳^ノ河^ノ楊^ノ興^ノ隆

建^ノ昌^ノ宅 130B 140B 260 特^ノ様 氷^ノ採



4132

發信濟

祥事... 爲下...

承德、派遣... 司本部...

霍實... 井上高之... 使者...

殷汝耕... 薊州... 古北口...

受信者... 發信者... 參謀長

師	團	長	發號	翰
參謀長	少將	參謀長	七	七
連帶者	主任	部長	參	參
部長	部長	部長	第	第
主任	主任	主任	一	一
參謀	參謀	參謀	五	五
副官	副官	副官	四	四
員	員	員	號	號
昭	昭	昭		
和	和	和		
年	年	年		
5	5	5		
月	月	月		
25	25	25		
日	日	日		
發	發	發		
送	送	送		
者	者	者		
發	發	發		
印	印	印		
送	送	送		

七參第一五六號

- ① 296
- ② 369
- ① 198
- ② 219
- ③ 250

此二事件^④關本解決ニ關シ日本側ノ誠意ヲ陳謝ス

ト共ニ^①將來再ヒ斯ノ如キ不祥事ノ發生セ尤^②為^②最^②多ク

努力力ヲ為スヘキ事ト^③誓^③フ。仰^③因^③於^③此^③。故^③使者^③持^③シ^③殷^③ノ誠意^③ヲ

多^④トスル共ニ^④重^④ト^④思^④島^④内^④親^④解決^④ヲ為^④全力^④ヲ傾^④注^④シ^④著^④ク^④實現^④セ^④シ^④ト

シ^①存^①心^①日^①本^①軍^①ノ^①於^①テ^①本^①件^①解^①決^①ヲ^①為^①爲^①爲^①。ト^①來^①ト^①言^①フ^①。則^①平^①元

決^②意^②ヲ^②有^②ス^②旨^②ヲ^②述^②ヘ^②置^②キ^②。故^③使者^③。別^③ニ^③三^③指^③長^③。別^③ニ^③六^③指^③長^③。

林^④田^④太^④右^④長^④。毛^④田^④右^④指^④長^④。與^④今^④換^④抄^④通^④ヘ^④。願^④内^④部^④稅^④関^④等^④。周^④知^④各^④校^④同^④元

歷^⑤訪^⑤シ^⑤三^⑤十^⑤者^⑤。假^⑤平^⑤ノ^⑤途^⑤ニ^⑤シ^⑤テ^⑤

瀋本 6

參電報譯部

電

報

昭和九年五月二十四日

午前

九時五五分

翻譯者

着

番號

38

參謀長

宛

發信者

北京武官補佐官

本文

北京三四五

昨二十三日城大尉ヲ通州ニ派遣シ魏永和
 部隊撤去ノ全機関銃ヲ莫稜セシメトヨ約東
 通リ既ニ十二挺格納シアリ
 今回ノ莫稜ハ配布原簿ト對照シテ為スベキ
 筈ナリシモ該原簿ノ提出問ニ合カリシタメ
 番簿ヲ控へ近日中ニ更ニ照合スルコトセリ
 通電先、參軍、天、七師

Vertical handwritten notes on the left margin.

陸軍

參謀部



任主

岩

D

秘

子劍縣事件行動詳報

自昭和九年五月九日
至昭和九年五月三十日

卷第六四

林田大隊

派遺
第七師團司令部
9.8.1
普通受付

目次

其一 行動開始前之狀況

1. 事件發生之直接原因

2. 事件發生之對策及與警備隊長之處置

3. 行動開始前之準備

其二 行動經過之概要

1. 行動開始

其三事件交涉、經過概要

其四下營駐留間射擊事件概要

其五、薊縣二於九重火器撤去、概要

其六本行動間、得夕九前具

其七本行動間、情報

附表附圖

其八劉家庄附近勞土中隊酒井行候行動詳報

其一行動開始前狀況

一事件發生直接原因

馬蘭峪敬警備隊二彈藥補充ヲ終リ五月五日午後五時頃薊縣ニ到着セル大島曹長指揮スル興隆第三大隊、大行李(車輛土台、援護兵十名通譯二ハ薊縣東門城外旅館ニ宿營セ下縣長ヲ訪シ面談シ宿泊ノ諒解ヲ得タリ縣長ハ我ニ對シテ好意的言語ヲ以テ相對セルモ公安隊及保安隊員ハ常時我ヲ監視シ或ハ尾行シ其態度不遜ニシテ又城壁上

ニ多数ノ警戒兵アル事發見シ目没ニ至リ益々
警戒嚴重トナリ部下ノ引上意見具申アル事
豫定ノ如ク一先宿營セリ然レト又便衣ノ密
偵ハ宿營家屋ヲ包圍シ舎主及附近住民ハ
逃走シ宿舍ノ直前城壁ニハ益々多数ノ隊員
出沒スルヲ以テ宿營ハ急檢ナリト判断シ午後八
時四十分頃該宿營地ヲ撤シ西門外ヲ經テ黃
崖関道ヲ前進中突如後方城壁上ヨリ多数
發射撃ヲ受ケタリ大島曹長ハ直チニ通譯

ヲ件ニ偵察セシ又城門ハ閉鎖シアリ闇夜ニシテ
狀況不明ナリシ爲行軍ヲ連行シ既途ニ就キテ
我ニ射撃セシモハ前述ノ狀況ヨリシテ保安隊員或
ハ公安隊員ト判断セラル

ニ發砲事件ニ對スル興隆警備隊長ノ處置

大島曹長ハ五月七日正午無事興隆ニ取隊直
ニ之狀況ヲ大隊長ニ報告ス

大隊長ハ之狀況ヲ調査セシ結果皇軍ニ對シ發
砲セルヲ憤慨シ八日午前八時承德聯隊本部ニ
報告ス

2. 支那側射擊位置附圖第一如下

三. 行動開始前準備

1. 五月八日午後五時三十分電步兵第二號

2. 依り出動準備ニ著シ步兵五六作命第一號ヲ下

達ス

歩五六作命第一號

步兵第二十六聯隊命令

五月八日午後三時三十分
於承德縣本部

一. 師團ハ其劍縣公安隊及保安隊ニ派シ、態度ニ

對之ヲ應徵シ皇軍戒武ヲ示サ下ス

二第三大隊長ハ勳縣當局ニ對シ犯人ノ處分公安隊及保安隊ノ正式謝罪及移駐ヲ要求シ將來ニ對スル保証ヲ獲得スル爲興隆及馬蘭峪部隊ノ主力ヲ指揮シ先ツ下營ニ前進スル準備ニアルハシ

各部隊出發ノ時機ハ明九日午二時興隆飛行場ニ於テ安保中尉ヲシテ傳達セシム

三本行動間無線機一宜撫班ニ可取屬シ在承

德飛行機八日九日飛行ヲ開始シ其行動協
力スルヲ

又第十中隊主力ヲ九日早朝出發興隆ニ行軍
セシム

四余ハ二隊德ニ在リ

聯隊長

高木大佐

歩三六四作庫第一號

第三大隊命令

一師團八十劍縣公安隊及保安隊ノ不遜ナル能ハ度

五月八日午後六時
於興隆警備隊

二對シ之ヲ膺懲シ皇軍ノ威武ヲ示サントス

二大隊ハ五月五日夜皇軍ニ對シ不法射撃ヲ行

タル刻縣村近支那團體ヲ膺懲スル目的ヲ以

テ明九日先ヲ下營ニ向ヒ前進セントス

三各隊ハ警備出動規定ニ基キ明九日午前七

時迄ニ出動準備ヲ完了スヘシ

但シ第九中隊及第十中隊ハ各一小隊ヲ擁護

備地ニ殘置シ警備ニ任スヘシ

四服裝馬裝ハ軍裝ニシテ夏外套ヲ用フヘシ

敬告

五、糧秣ハ六日間、所要糧ヲ各警備隊毎ニ行
本子ニ積載携行スヘシ

六、出發ニ関シテ別ニ指示ス

七、余ハ警備隊本部ニ在リ

附九日午ノ前七時山隊長以上ハ警備隊本部ニ
集合スヘシ

大隊長 林田少佐

(下達法小隊以上ヲ集メ口邊筆記セシム馬蘭塔部

隊ニ對シテハ電詔ニテ筆記傳達セシム)

五月九日 晴天無風

一、午前十時十分安保中討到署。七師作命第二十五號及步二十六作命第二十四號第二十五號第二十六號。傳達下。

二、七師第二十五號及步二十六作命第二十四號第二十五號第二十六號。依步二十六作命第二號。傳達下。

三、武庫出動編成表附表第一如下。

七師作命第二號

第七師團命令

五月八日午後一時
於承德師團司令部

一、薊縣公安隊及保安隊ハ去ル五日夜我縣陸部
隊部ニ對シ不遜態度ニ出テ終ニ發砲シテ敵對
行爲ヲ示シタリ

二、師團ハ斷乎之ヲ膺懲ニ皇軍ノ威力ヲ示サ下ス
三、各警備隊ハ速ニ大隊長ヲ指揮スル約ニ守隊ノ
兵力ヲ下營(薊縣北方約五里)ニ集結シ且薊
縣當局ニ對シ犯人ノ處分公安隊及保安隊ノ

正式謝罪移駐ヲ要求スヘシ

下營以南ニ出動スルハ師團命令ニ依ル

本行動間土號機無線一並宣撫班二名ヲ配屬ス

前項配屬部隊ノ細部ニ關シテハ別ニ示ス

在承德飛行隊第三中隊一部ハ貴隊行動

ニ協力スル筈

四予ハ依然承德ニ在リ

第七師團長

杉原中將

下達法旅團長直接口達之ル後印刷交附不
取布先昇¹³ 25¹ 26¹ 14¹ 27¹ 28¹ 7¹ A P T 飛^機 自^中 繼^機 特^機 隊^部

步兵作身 第二四號

步兵第三十六聯隊命令

五月八日自^中 后^部 四^部 時^部 於^部 康^部 德^部 隊^部 本^部 部^部

正刺縣公安隊及保安隊ハ去ル五日夜我與隊部
隊一部ニ對シ不遜ノ態度ニ示テ逐ニ發砲シテ敵
對行爲ヲ示サリ

師團ハ斷乎之ヲ膺懲^心ニ皇軍^一武^武ヲ示^示甘^下

又

二 第三大隊長、興隆及馬蘭峪部隊主力ヲ指揮
シ、明九日出發、下營ニ前進シ、劇縣當局ニ對シ、膺
懲敵行動ヲ示サトス

三 第十中隊長ハ、中隊現在ノ勤務人員及其他一部
ヲ残置シ、明九日早朝出發、十日夕マテニ興隆ニ前
進シ、興隆部隊主力ノ自地歸還ヲ示シ、興隆ニ位置ス
ルニ

編岑飛行場警戒兵ハ、下士官一兵一コトナスヘシ

四 安保中尉ハ、明九日午前六時、三分飛行機ニヨリ

興隆ニ前進シ余ノ命ヲ傳達スル

爾後本行動間第三大隊本部ニ在リテ勤務ス

ハシ

五奈ハ承德ニ在リ

聯隊長

高木大佐

傳達怯先ヨ要旨ヲ中隊長ニ傳ヘ後印刷取布ス

歩三六作庫第二五號

歩兵第二十六聯隊命令

五月一日午後五時
於承德縣司令部

一第三大隊八九日午前七時以後行動ヲ開始スル

ヘク速ニ其勳縣當局ニ勸告スヘシ

ニ膺勳行勳ニ関シ左ノ如ク注意スヘシ

一 邦國守自第二項ニ断テトハ彼我勸告ニ悉ク
サル場右ニ於ケル動作ニ付應用スルモノト心得夫
ニ與テ諒文涉ハサルヲ穩候ナル方法ニ依ルヘク或ハ
黃嗟關ノ公安局員又ハ密偵ヲシテ彼ニ謝罪
等ヲ要求スヘク軍隊自ラ軍使ヲ派遣スルハ
最後ノ手段トス飛行機ハ九月廿九日其勳縣四周ニ宣
傳勸告文ヲ散布スル豫定

2. 師團在東友第三項ノ彼ニ對スル要求ノ主眼ハ
犯人ノ處分正式謝罪ニシテ移駐ハ第一トス
何レシテ又彼ヲシテ將來ニ對スル誓約ヲ有
シムルニ努ムヘシ

此第十中隊ハ彼等ノ目的ヲ以テ九日出發與薩
ニ同ク前進セシメ續大隊ノ缺遂歸着並賣地
留留セシム依然歸還長ノ直轄トス

下營以南ニ出發スル下ハ隊ノ命令ヲ待以テ是ノ下
ルヲ以テ要スルトス其狀ヲ報告スル

三、隊ハ承德ニ在リ

聯隊長

高木大佐

下、遠怯安隊中尉ヨリテ飛行機ニ依リ携行傳達云

步兵作庫第二六號

步兵第二十六聯隊庫在

九月八日午後五時
於承德聯隊本部

陸軍一等看護長木村在

一、
明日承德出發第三大隊出勤間司令部

在リテ勤務スヘシ

一乘馬小隊

遠陣步兵一等兵

石川政勝

二等兵

前田 忠

成田藤吉

中川平八郎

境 吉松

磯田 亦

明日可有當分間第十中隊長、指搦下二入

少人

各乘馬ヲ附ス

三 機關銃隊長ハ乘馬一ヨリ三石大尉ニ貸與
スル

聯隊長

高木大佐

下達恠命令受領者ヲ集メ印刷交付ス

歩三六五作隊第二號

第三大隊 命令

五月九日午二時
北嶽陸警備隊本部

一大隊(第一中隊欠)ハ聯隊命令ニ基キ午前一時三十分各警備地ヨリ出發シ下營ニ向ヒ前進セ下

二第十中隊主力ハ本九月ノ承德ヲ出發シ翌十日中三
興隆ニ増援ノ為到着スル筈

第九中隊ノ小隊長ノ指揮スル殊置正小隊ハ第十
中隊到着セハ警備ヲ交代シ速力ニ追及セ云々
馬蘭峪部隊主力ハ大平庄ヲ經テ下營ニ回
前進シ旅ノ指揮トスルハシ

安保中尉ハ七行動間本職大隊副官ノ業務ニ服務
スルハシ

数田中尉ハ先ヨ警備隊ニ在リテ情報甚々集通

信連絡ニ努メ執留者ノ處置ヲ爲シ即團無線班宜撫
班看護長到着セハ可速ニ下營ニ向ヒ前進スヘシ

三、承德飛行機ハ本日早朝ヨリ飛行ヲ開始シ大
隊ニ協力スル等 師團參謀一宜撫班ニ看護長一
ヲ配屬セラル本日中ニ與後ニ到着スル筈

四、本田通譯ハ國境警備隊員ニ名ト共ニ速カニ前進
シ下營要人ヲ伴ヒ剴縣ニ至リ縣長及公安隊係
安隊ニ對シ犯人ノ處置責任者正式謝罪移駐ヲ要求
スヘシ

五、行軍序列

馬、9、M9、IA、行李、給

大波良 林田少佐

下達法小隊長空可集人口壘筆表也ム

其二 行動經過之概要

一 行動開始

五月九日午前七時三十分出發、機熟、將兵士氣旺盛、
陸警備地ヲ出發午前十時三十分三順口ニテ大休止後午
后六時(馬共蘭必部隊(所出、李行、孫也)午后五時(軍分)下
營ニ到着ニ付、圖ヲ警戒網ヲ完成ス

二 各部隊之行動

一 午后零時三十分三順口ニ於テ協力飛行機ヨリ通報
ノ師團司令部、宣傳佈告文ヲ、薊縣ニ投下、低
空旋回セ、天城内外共ニ狀況變化ナシ

只賣大隊ノ第十中隊ハ本九日午前六時備峯ヲ通過南進
セリ。

第十中隊ハ午前十一時十五分赤豊帝陵西南二村ヲ南
進中連絡ヲセリ

ハ下營ハ大隊ノ宿營ニ夜分ナリ。下營東方十村(劉家庄
東方)ニ車輛通過困難ノ地ナリ。

ニ余ハ今ヨリ取還ス卅十日天亦協力スル也

(偵察 中島中尉)

ニ五午前一時三頃口ニ於テ歩五六五作余第三隊ヲ下達ス
歩五六五作隊第三隊

大隊 命令

五月九日午後一時

(一) 其後、状況変化ナシ

(二) 安保中尉乗馬自轉車傳令通譯一ヲ捕縛シ可成速
ニ下營ニ前進シ第十中隊ト連絡ヲ採リ下營公安分署員
ノ動靜ヲ偵知シ該營ニ任スヘシ

大隊長

林田 少佐

下達法 本右受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

三 安保中尉以下十名ハ午後一時三十分頃ハ出發シ苗ヶ窪關ヲ經テ午後
四時下營ニ到着ス馬ヶ關峯部隊先發者神曲少尉自
時到着ス

四 庚午午后六時下營ニ到着シ直ニ坂ニ又五作隊第四隊ヲ下達ス

歩三五作隊第四隊

大隊 命令

五月九日午后六時
於下營中又望樓

一 當地附近公安署長ハ本九日午前十時頃、薊縣ニ召
集セラレ不在ナリ（理由不明）

又薊縣ヨリ來レハ旅人ノ言ニ依レハ薊縣ニ相當混亂
シ居ル模様ナリ

二 大隊（共十中隊除）ハ下營ニ兵刀ヲ集結シ狀況ヲ偵
知シ任務ヲ達成セントス

三馬蘭塔部隊所到者後八余ノ直轄トス
神谷少尉ハ興隆馬甘蘭塔兩所ヲ右シ附隊長トシテ其
指揮ヲ採ル
四余ハ下營中決望樓ニ在リ

大隊長

林田少佐

下達後年令受領者ヲ集メテ口達軍勢セシム
五手次ニ密偵ヲ刺縣及馬伴橋方面ニ派遣シ情報蒐
集ニ努ム

六去午后七時歩二六四俣存勢五隊ヲ下達ス

庚辰年四月五日

大隊 命 命

青儿年一后七時
於下營城內奉部

其後之狀況變化十之

大隊之本夜下營之警急之警急之警急

三隊九中隊之小銃輕機各一分下營西南端附近

二出之供水庄方向之對之警急戒不之

茅土中隊之小銃輕機各一分下營東面端附近

二出之揚庄大平庄方向之對之警急戒不之

兩中隊之警急戒區域之十營南門標高562青山嶺連

子儿線

四各隊之警急者、指示之符之在營中入之

因唐營衛兵トシテ第九中隊ヨリ下士官一兵六名ヲ
直ニ本部前出シ唐營日直將校、指示ヲ受ケシム
ヘシ

唐營日直將校

安少尉

巡察將校

栗栖特務隊長

(一) 警急集合所ハ本營城內中史望樓下廣場トス
(二) 結城ハ大行李糧秣ヲ使用ス午後七時三十分本部
前ニ於テ分取ス

以余ハ本營城內中史望樓下張旭東方ニ在リ

大隊長

林田少佐

下達法在在受領者ヲ集メテ達筆致セシム

七 去年后八時下營公安分署員及自衛副團長ヨリ城

内民心慰撫ニ努メシム

四年后九時三十分大平庄ニ疎置セシ馬蘭嶼NGA行

事ト達結フ

八 去年后拾時由三六四休庫才六號ヲ下達ス

步三六四休庫才六號

大隊命令

五月九日午后十時
於下營城由本部

其後新報ヲ得ス

無線班ハ昨夜寺下營ニ到着スル迄 馬蘭

此所隊合隊並ニ大行李子、同撥護兵ハ亦後余ノ
直轄トス大平庄ニ位置シ田中於長之ヲ指揮シ後
命ヲ待ツヘシ

○明十日午前六時現在、警戒取備ヲ左ノ如ク變更スヘ
シ第一中隊ヨリ小銃輕機各一分ヲ下營西南五百
米、鞍部道路上ニハシ、薊縣方向ニ對シ警戒ス
ヘシ第九中隊ヨリ下士官一、兵十三名ヲ出シ各營衛兵
ニ任セシメ左ノ如ク展望哨ヲ配置スヘシ
下營中隊望樓上ニ一名東北端高地ニ一名東端三
名西端三名出スヘシ

夜間後哨ト爲スヘシ

米土中隊故三戒部隊ト連絡法ハ別ニ示ス

大隊長

林田 久佐

下達時 命令要領者ヲ集メテ口達筆記セシム

五月十日 晴天微風

九日午前七時本田通譯 國境警察隊員及下營要
人等廿割縣ヨリ下營ニ取遣ス

十日午前八時歩二六五作 第七號ヨリ下遣ス

歩二六五作 第七號

大隊 命令

五月十日 午前八時
於下營 隊員本部

大島曹長ハ出勤人馬三對スル十日間 糧秣ヲ十三日
刻迄ニ與隆ヲ補給スヘシ

(二) 佐々木軍曹ハ第九中隊 殊留兵ヲ指揮シ大行李ヲ
撥獲シ明十二日早朝 興後ニ出發シ下營ニ向テ前進ス

ハシ

日本十日會營日直將校

酒井特務曹長

日

巡察將校

堀井特務曹長

大隊長

林田金城

下達法年台要領者ヲ集メテ違筆記セシム佐々木軍曹ニハ

待命ヲ馬蘭崎ニ至リ要語ヲ以テ下達ス

十一 午前九時下營要人ヲ集メ日本軍來營目的ヲ傳ヘ

佈告文ヲ出シ民心ヲ慰撫ニ努ム

十二 午前十時零分數田中尉以下三名無線電取直撫

班、憲兵、軍目、勤、沖、三、ヲ、到、着、ハ

十三日午前十時十分飛行機ヨリ通報

一、余八員隊ト連絡シ通信筒約取上ヨリ

長ニ呈出ス

一、貴員大隊第十中隊ハ午前九時十分黒馬溝(北營房

北方六村)通過南連中連絡セリ

一、爆撃ノ準備アリ 十五魁四殺(偵察中尉中島)

一、高安午后十時三十分別紙情報報第一號第二號ヲ飛行機

ニ扶シ師團旅團隊隊長ニ報告ス

一、十五日午前十時四十分飛行機通報

一、貴隊報告文夫々承德深平ニ投下ス第十中隊ニ

途中連絡ス

白土刺縣城ハ昨日、旅雜ニ比シ本日ハ殆ト下方外ニ在ル
ノナリ車馬ノ通交又停止ナリ

通信筒釣取設備ハ良好ナリ

四、舟ヨリ敗還ス

(中島中尉)

十六日午後一時無線通信連絡開始シ左記事項ヲ師團
旅團聯隊ニ報告ス

(一) 師團無線班宣撫班ハ本十日午前十時下營ニ到着
ス白土刺縣ニ對シテ八目下下營要人並ニ密偵ヲ派シ関
係者ヲ招致問題ハ解決ニ努メツクアリ本夕ニ白土刺縣

縣長北京ヨリ級來スルニ付解答スル者 確言セリ

○薊縣保安隊長ハ責任者ナシ不殆下相違ナキ其
責任ヲ負サニ就キ目下密偵ヲ派シ直接犯人ノ買収
ニ努メテアリ縣城ハ閉門シ通行人数ク緊張ノ状態
ナリ

(大隊長)

支隊午後四時木村看護長菅野軍曹下營ニ到着ス

○午後八時師團長旅團長 駐隊長ニ左記事項ヲ無

要ニテ報告ス薊縣々長代理ハ本夕迄ニ解答スル旨明

言セハ何等回答ナキニ付乘ニ當地要人ヲ派シ其理由

ヲ詰問中ナリ

(大隊長)

九月十時步二十六四作年第八號ヲ下達ス

步二十六作年第八號

大隊 余 令

五月十日午後十時
於下營城日本部

飛行機通報ニ依レハ刺撃城ハ昨日ハ戶外ニ墜下

人影ヲ見ス又我要求ニ對スル回答未夕來ラズ

各隊ハ警戒戒ヲ嚴ニシ非常準備ヲ為スヘシ

特ニ下營市街ニ接近スルモノニ對シ警戒戒下ヘシ

無線班宜撫班ハ本日到着セリ

四 明日日營日直將校 谷少尉

自 巡察將校 吉松特務部長

大隊長 林田少佐

下達陸小隊長以上ヲ集メテ筆記セシム

五月十一日 晴 天

十九日午前七時無事ニ依リ師団旅団隊ニ別紙情報

第五號ニテ報告ス

二十日前十時無事ニ依リ中隊長ヨリ通報アリ
第一
十時隊ハ午前五時在員喫煙ニ無事到着ス直ニ警
備ニ服セリ

二十日前十時ヨリ十一時迄飛行機ヲ一通報

八剋縣城日ハ状況昨日ト変化ナシ戶外ニ在ルモノナシ
只邦釣鎮ハ守邊治潑ナリ馬伸橋ハ変化ナシ

八責大隊山砲分隊大行李ハ下ニ五束方ノ文牒ヲ前
進中 (偵察 中島中尉)

日情報第五號ヲ飛行機ニ依リ師團長旅團長
聯隊長ニ移送報告ス

壬子午二時三十分ニ燕電ヲ以テ師團長旅團長聯隊長
ニ報告ス

密偵報次ノ如シ

廿剋縣保安隊ハ九日、夜廿剋縣南北高地ニ防禦態勢

ヲ示シタル又日本軍薊縣ヲ攻撃セザル爲十月
午後四時頃圍ニ城內ニ入レリ城内外ノ聲言或ハ
トナレリ

九月會談席上ニ於テ保安隊長ハ日本軍カ射撃セハ
應戰スルト豪決セリト自衛團公安局ハ保安隊ニ協力
セテ下ヲ密偵ヲ通シ小官宛托言セリ保安隊ニ逃去
ハ無根ナリレモト思考ス連絡事項アルニ付申飛
行様ニ飛來ヲ待シ

(大隊長)

三 翌(三) 午後三時馬蘭峪所下營ニ到着ス
同日時無電ニ師團長ヨリ左ノ通報アリ